

大阪港における高潮対策検討会について

1 背景

平成30年台風第21号により、大阪湾内の港湾や沿岸部において、港湾施設等に大きな被害が発生したことから、台風第21号と同程度の台風を念頭に、人命の確保及び施設の被害軽減、物流・生産機能の維持に関する方策を検討するため、近畿地方整備局が中心となり、学識経験者や専門機関などからなる「大阪湾港湾等における高潮対策検討委員会」が設置された。

大阪港においても、大阪港部会を開催し、「大阪湾港湾等における高潮対策検討委員会」における検討結果を踏まえつつ、咲洲や夢洲など埋立地の護岸背後の地盤の低いエリアにおける施設被害や浸水被害について、被害原因を検証し、被害箇所の対策の検討を行なった。

その結果、埋立地の高潮対策については、台風第21号の高潮対策検討結果に加えて、それを上回る規模の台風(伊勢湾台風級)が来襲する場合の浸水想定を行い、その結果も踏まえて効果的な高潮対策を検討することになった。

2 実施方針

平成30年台風第21号の被害を受け、開催した大阪湾港湾等における高潮対策検討委員会(大阪港部会)における検討結果と平成30年台風第21号を上回る規模の台風による浸水想定を踏まえた、効果的な高潮対策の検討を行うため、学識経験者や専門機関からなる本検討会を開催する。

【検討項目】

- ・平成30年台風第21号を上回る規模の台風(伊勢湾台風級)での浸水シミュレーションの実施
- ・平成30年台風第21号対策検討結果と上記浸水シミュレーションを踏まえたエリア別の防護水準の検討
(防護の対象とする台風規模、背後地からみた許容越波流量の設定)
- ・浸水エリアにおける高潮対策の検討
(防護ライン・防護形式の検討、設計潮位・設計波高の設定)

3 高潮対策検討会の開催イメージ(全4回を予定)

第1回(令和元年7月25日)

- ・平成30年度大阪港部会の検討結果及び課題について
- ・平成30年台風第21号を上回る規模(伊勢湾台風級)の台風諸元について

第2回(令和元年 10 月開催予定)

- ・伊勢湾台風級の浸水シミュレーションの結果について
- ・エリア別の防護水準の検討

第3回(年内に開催)

- ・浸水エリアにおける高潮対策について

第4回(年度内に開催)

- ・対策のとりまとめ

4 体制

委員長:青木 伸一 大阪大学大学院 工学研究科 教授

委員:弘田 実 気象庁 大阪管区气象台 気象防災部
気象防災情報調整官

本多 和彦 国土交通省 国土技術政策総合研究所
沿岸海洋・防災研究部 沿岸防災研究室 主任研究官

河合 弘泰 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域長

新村 貴史 国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部
港湾空港企画官

オブザーバー: 阪神国際港湾株式会社

大阪港埠頭株式会社

事務局: 大阪市港湾局計画整備部計画課及び海務課